

垂直管渠（ドロップシャフト）用管材の開発に関する研究

全体期間

1995. 2～1996. 11

（目 的）

人孔内での管渠の接続時に高落差が生じる場合の対策として、副管が用いられてきた。しかし、この方法は、騒音・振動あるいは硫化水素が生じやすい、維持管理が困難、底部コンクリートの洗掘等の問題がある。

このような問題を解決するために、

- ① 人孔内に設置できること
- ② 流入汚水を全量流下できること
- ③ 空気連行量を最小限に抑えられること
- ④ 維持管理が容易にできること
- ⑤ 管材の標準化、ユニット化が図れること
- ⑥ その他（洗掘・騒音・臭気防止等）

等を条件として、垂直管渠（ドロップシャフト）用管材の開発を行い、最終的にはこの技術マニュアルの作成を目指すものである。

開発の対象範囲は、①分流式の污水管、②シャフト径：φ250mm～φ1,100mm、③落差：2.5m～10m、の3項目とする。

（結 果）

具体的な研究等は平成7年度から始まるため、平成6年度における成果は特にないが、その開発内容を以下に示す。

- (1) 垂直管渠用の管材としての材質、強度、耐久性、耐摩耗性および耐薬品性を有する材料の開発
- (2) 垂直管渠用管材の構造、形状および施工法等
- (3) 技術資料の整理および技術マニュアルの作成

共同研究者：財団法人 下水道新技術推進機構

積水化学工業株式会社，株式会社クボタ，三菱樹脂株式会社

研究担当者：藤田 昌一，鈴木 茂，山下 順市，高岡 俊司

キーワード

垂直管渠，高落差，垂直管渠用管材